

【第2回札幌糖尿病医療学研究会】の開催を報告します。

2019年6月29日（土曜日）に札幌の天使病院5階の天使ホールで第2回札幌糖尿病医療学研究会を開催致しました。

今回のテーマは「糖尿病患者のところに触れて知るころ」をテーマに皆様と熱い討論を行いました。

今回はコメンテーターとして奈良県立医科大学糖尿病学講座石井 均先生、奈良県立医科大学医師・患者関係学講座 皆藤 章先生をお迎えして開催致しました。参加者は、両先生を含めて、医師15名、看護師55名、管理栄養士7名、臨床心理士4名、薬剤師1名、理学療法士1名、臨床検査技師1名、ケアマネージャー1名、ソーシャルワーカー1名、学生2名、その他7名の総勢79名で、遠くは釧路、帯広、斜里、東京から参加していただき大変うれしい研究会となりました。

日本糖尿病医療学研究会は2014年に発足し2016年から日本糖尿病医療学会になり、2018年8月3日に第1回札幌糖尿病医療学研究会を開催致しました。

昨年同様今回もすばらしい情熱を持った多くの方々が参加していただき熱い討論が繰り広げられ大変勉強になりましたし、参加された方々は日頃から勉強されていてよく考えて実践している方々が多くパワーのすごさに圧倒されました。

糖尿病診療には、糖尿病に関する病態生理、治療薬やsick day対策などの知識が必要ですが、決まりきった知識の説明や実技指導だけで糖尿病治療が完璧にできることは稀で、ころの問題、お金の問題、生活環境、家族環境などのさまざまな問題が程度の違いがありますが影響して糖尿病治療が成り立っています。

以上の諸問題を何とかしたいと思い石井 均先生、皆藤 章先生が中心になって糖尿病医療学が構築されてきました。

今回の事例発表は次の5症例です。

① 『血糖悪化傾向の患者～コーチングを取り入れてからの変化～』

栄養指導にコーチングを取り入れて時間的に余裕が生まれ、患者さんの話をじっくり聞けて患者さんとの関係がスムーズになり栄養指導がすすんだ症例。

② 『糖尿病患者の心にふれて～私が母を見捨てたんだらうか～』

患者さんと自分が繋がっていて、自分の子供の頃の思い出が呼び起こされたりする。患者さんの思いを受け止めた時は辛いこともあるのでチームで受け止めて支える必要があり、辛いときには港（＝病院）が必要になってくると考えられる症例。

③ 『あなたはやせたいですか～ところに響く支援とは～』

糖尿病患者さんには体重を減らす必要があることはよくありますが、食事が不規則で大量の間食を摂ってしまう背景を考え、医チームで心理的に支援しながら希望を持って支えていく努力が必要な症例。



④ 『「その時間」を一人ひとりに伝えたいだけなのに』

患者さんが病を抱えて生きていくということを、糖尿病の治療をするということを通じて我々に考えさせてくれる症例。

⑤ 『「好きな物を食べて死にたい」治療意欲低下の」高齢糖尿病患者：第2報』

病気は手術で治癒したが手術は患者さんに大きな影響を与えた可能性が強く、人の人生には生きる楽しみが必要でその楽しみを見つけることをサポートしていくにはどのような支援ができるかを考えさせてくれる症例。

それぞれの事例は大変勉強になる事例でした。発表して下さった 5 名の方に深く感謝しています。

1 事例毎にグループワークなどでみなさんと討論をしていただきましたが、いろいろな意見が出て時間が足りないと思った方々が多かったと思います。1 事例ごとに石井先生と皆藤先生からコメントしていただき大変勉強になりました。

基調講演を釧路赤十字病院 内科部長 古川 真先生が『リウマチ医古川真三郎外伝！リウマチ医はブルーライトアップの梅を見るのか？』という演題でパワー溢れる講演で皆さんに感動をプレゼントしていただきました。

ランチョンセミナーは北海道大学免疫・代謝内科学教室 の中村昭伸先生に『患者満足度に着目した2型糖尿病治療』の演題で自験例での検討した結果に基づいて糖尿病治療について講演していただきました。

最後には特別講演として『医療学に至る道』という演題で皆藤先生が講演していただき、「医療学」ということばとの出会いと心理臨床家としての患者と「共に歩む」ことで病いに向き合ってひとの生きるをサポートしていくという糖尿病医療学の考え方について話してくださいました。大変感銘を受けるお話で皆藤先生でなければ話せない内容で大変好評ですばらしい講演でした。(もっと話を聞きたいと思った方がたくさんいらっしゃいました)次に『糖尿病医療・病の経験のケア』という演題で石井先生が話され、研究会で検討した五つの事例について総評を1 事例ごとにしてくださり素晴らしいまとめとなりました。

(石井先生による医療学の講義などをもっと聞きたいと思った方々がたくさんいらっしゃいました)

閉会の挨拶を勤医協中央病院の伊古田明美先生がしてくださり、来年へ向けて新たな気持ちを持つことができました。

以上の内容で午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分過ぎまで長時間になりましたが、時間が足りない感じもありましたがとても充実した内容であったという間に時間が過ぎ去った様に感じました。

皆様に深く感謝すると共に大変お疲れ様でしたという感謝の気持ちで一杯です。

第 2 回札幌糖尿病医療学研究会のアンケートをまとめています。

参加された職種は約 80%が看護師さんで、残りは様々な職種の方々が参加してくださいました。参加された理由の第一位は職場・知人に勧められたが大変多く、第二位は石井先生・皆藤先生が中心になってすすめている糖尿病医療学関連のホームページやイベント、第三位が昨年も参加してよかったのでという結果でした。

今まで糖尿病医療学学会・研究会に参加経験のある方が約 70%で、3 回以上参加している方が大変多くいることがわかります。

日常の糖尿病患者さんとの関わりでの悩みでは、患者さんとの関わり方、患者さんが望んでいることは何か、なかなか心を開いてくれない、行動変容に至る道のりの大変さ、どこまで踏み込んでいいのかなどたくさんの方が悩まされていました。本研究会が日常臨床の参考になりますかの質問には、100%の方が参考になるという結果でした。本研究会に対するご意見で、石井先生・皆藤先生のお話をもっと聞きたい希望、事例を減らして議論の時間を長くした方がよいのでは、飲み物やおやつの用意がよかった、様々な職種の方々と意見交換できる貴重な機会です、いろいろな悩みや関わり方を聞いてモチベーションが上がりました、来年も開催してくださいなど多数のご意見が寄せられていました。

研究会後の懇親会の際には、石井先生、皆藤先生を含めた多数の方々が参加していただきとても楽しい時間を過ごすことができました。来年の研究会に向けて新たな気持ちになりました。

最後に本研究会に参加してくださいました皆様に深く感謝しております。

『来年もまた札幌糖尿病医療学研究会お会いしましょう』で最期の挨拶にさせていただきます。



第二回札幌糖尿病医療学研究会 幹事代表
母恋 天使病院 糖尿病・代謝内科
吉田和博